

# 景況レポート

(9月分・情報連絡員79名)

## DI値は3カ月連続で下降

～食品・繊維製造で猛暑の影響大～

【概況】9月の県内景況は、前年同月と比較して、景況が「好転」したとする向きが8.9%(前月調査10.0%)、「悪化」が44.3%(同43.8%)で、業界全体のDI値は-35.4となり、前月調査と比較して1.6ポイント下回った。

内訳として、製造業全体のDI値は-38.7で前月調査(-21.9)と比較して16.8ポイント下回った。一方で、非製造業全体のDI値は-33.4で前月調査(-41.6)と比較して8.2ポイント上回った。

記録的な暑さにより、食料品では売上が低迷、一方、木材や建築工事では住宅着工に動きが出始めた。また、自動車販売ではエコカー補助金が終了したが、予想された駆け込み需要はなかった。

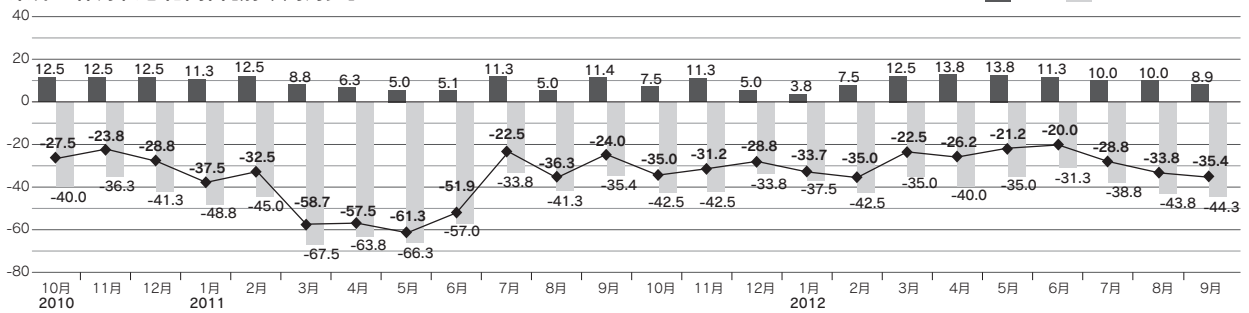
(回答数：79名 回答率：98.8%)

項目	業界の景況	売上高	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
製造業						
非製造業						

【凡例】  
 快晴 30以上  
 晴れ 10以上 30未満  
 くもり △10以上 △30未満  
 雨 △30以上 △10未満  
 雷雨 △30以上 △10未満  
 【天気図の見方】前年同月のDI値をもとに作成しています。

※DI値とは、Diffusion Index (ティフュージョン・インデックス) の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。

業界全体好転悪化割合[前年同月比]



### 業界の声

- 豆腐** 例年になく暑い日が続き、豆腐の需要が低迷した。冷や奴の需要はあったが、ほとんどを他県の大手業者が占め、業界はかなり厳しい環境にある。
- パン** 猛暑のため、売上は昨年同月比10%以上のマイナスとなった。
- 繊維製品** 猛暑の影響で秋冬物の販売開始が遅れ受注が少なめであった。秋冬物の販売期間が短くなって、追加発注は大幅に減少の見込みで、この先の受注が懸念される。秋物製品は例年の半数以下の受注で冬物の生産に切り替えたものの、数量は確保できていない。
- 一般製材** 消費税増税の影響で住宅着工件数に変化が見られ、受注が増加している。
- 印刷** 依然として官民ともに印刷物の受注件数が減少傾向にあり、今後の予測が立たなく厳しい状況にある。価格競争も一段と厳しく原材料の高騰部分を価格にどう転嫁するかが、今後の課題となっている。
- 自動車販売** 9月の新車販売台数は、登録自動車が2,476台(前年同月比102.0%)、軽自動車が2,065台(同113.3%)で、合計4,541台(同106.8%)であった。エコカー補助金は9月21日に終了したが予想された駆け込み需要はなかった。
- 石油販売** ガソリン1ℓあたり144円80銭で前月比9円40銭の上げ。軽油1ℓあたり126円20銭で前月比6円60銭の上げ、配達灯油は18ℓあたり1,652円で前月比85円の上げで今年度初の前月比上げとなった。これは海外の原油価格値上げの影響によるもので、依然として全国2位の安値となっておりマージンの回復には至っていない。
- 商店街** 9月は秋の気配が全く感じられず、衣料品関連の店は苦戦した。例年同時期にあった受注がズレ込み、仕入れにも影響が出ている。(大館市)
- 電気工事** 8月までは住宅着工件数が伸び悩んでいたが、9月に入って多少動きが出てきたように感じる。増改築工事や蓄熱暖房設備・太陽光発電設備の需要など、電気工事業界は忙しかった。
- トラック** 中旬までは荷動きが悪く、暇な状態であったが、20日頃から新米の出荷もあり、それに伴い動きが出てきた。昨年は震災の影響で秋田港に引き揚げられた荷物が今は少なくなり、また関東圏からの荷物量もかなり少なくなった。